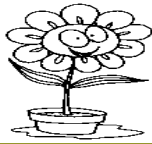


第99号

平成21年

3月6日

すまいるたん



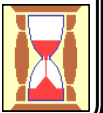
汐入



発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

千住製絨所から始まる

海老江家、理髪師の3代の歴史



「千住製絨所のリヤカーを借りて、
蕨市に疎開したんです」

千住製絨所所長を勤めたのは陸軍少将、
陸軍の軍人も多くおり、兵役を逃れてき
た人達も働いていました。バーバースショッ
プABの2代目の海老江重昭さんの父、
重作じゅうさくさんは、千住製絨所（陸軍製絨せいじゅうよう廠）
の中で4人居た理髪師の一人として働い
ていました。戦後、千住製絨所が無くな
り大和毛織に売却されたあとも、重作さ
んは、そこで理容師を続けていました。

「B29の低空飛行。操縦士のシル
エットが見えた」

3月10日の空襲は緑町に住んでいた重
昭さんは当時11歳。6人兄弟とお母さん
と共に千住製絨所の長いリヤカーを借り
て蕨市に2年間疎開しました。昭和29年、
重昭さんが20歳の時に千住大橋の都電停
留所前でバーバースショップABを開業
し、昭和43年に現在のコツ通りに移転致
しました。

「毛髪を思いのままに お客さん
の要望に応える」

その昔、男性がパーマをかけるのは、お
しゃれというより、いかに楽に髪をセッ

トするかが目的でした。パーマをかけて
から、その髪のうねりを見て、お客様自
身がセットしやすいようにはさみを入れ
ていきます。男性パーマも電気パーマか
らコールドパーマと変遷してきました。
アイパー（アイロンパーマ）コテで髪を
寝かせてクセをつける）パンチパーマな
んかはその後、順次普及してきました。
ドライヤーが普及し出したのは昭和30年
代後半でした。切って剃って、コテで固
めるのが主流だった理容業界で、当時は
パーマをかけるお客さんは月に一人位で
した。

「常に勉強」

重昭さんは珍しかった男性パーマを勉
強する為、月2回休みの前日の仕事が終
ると理容学校の友人達と集まり、京都か
ら先生に来てもらい、お互いがモデルに
なつて朝まで3年間勉強していました。

昔は髪スタイルでその人の職業がわ
かりましたが、今は多様化しています。
外出した時に町に行きかう人々をみると、
つつい髪型に目がいくということであ
り、そんな観察からヒントを得たりする
事もあります。電車の中で今は見かける
ことの少なくなつた、クラシカルにきつ
ちり4分6に分けた紳士を見かけて懐か
しくなり楽しかったと重昭さんは、話さ
れていました。

千住製絨所の理髪師重作さんから重昭
さん、3代目の重光さんに引き継がれて
いく職人の技術と心。バーバースショッ
プABは、戦争体験を飲み込んで時代と
共に静かな時が流れていく場所です。

◇千住製絨所は明治12年、東京府千住南
組字西耕地（現南千住6丁目）に操業を
開始。明治21年、陸軍省の管轄となり陸
軍所要の布地類、糸等を生産・管理し
ていました。昭和15年、陸軍製絨廠に改
称し昭和20年、敗戦により一切の操業を
停止し、大和毛織に売却されましたが、
昭和35年に操業停止となり閉鎖↓東京ス
タジアム↓荒川総合スポーツセンターと
なりました。

千住製絨所の
なごりの赤レン
ガは、サッポロ
ビール荒川物流
センター、都立
荒川工業高校付
近の細路地に残っ
ています。



バーバースショップAB

住所 荒川区南千住7-11-3（コツ通り）

TEL 03-3802-2051

営業時間 平日（火曜～土曜）8時30分～19時

／日祝日 8時30分～18時30分

休業日 月・火曜日